



A-PLAT

気候変動適応情報プラットフォーム
CLIMATE CHANGE ADAPTATION INFORMATION PLATFORM

資料 2

令和 4 年度「気候変動適応の研究会」の活動報告



2023年3月28日

国立環境研究所 気候変動適応センター



令和4年度「気候変動適応の研究会」の全体的な活動

令和4年8月1日 分科会幹事機関との意見交換

- 令和4年度の分科会活動を進めるにあたり、活動方法・運営方法等に関する意見交換を実施

令和4年8月～9月 「気候変動適応の研究会」に関するアンケート

- 構成機関及び地域気候変動適応センター等を対象に本研究会の活動・運営に関するアンケートを実施

令和4年12月5日 実務者会合

- アンケート結果を踏まえて令和4年度のシンポジウム・分科会の開催方法を合意

令和5年2月13日 シンポジウム・分科会

- 各構成機関による最新の研究動向の発表やテーマごとに参加者間での情報交換や連携の可能性等の議論を実施

<当面の目標>

地域での気候変動適応の実践（いわゆる社会実装）を念頭に置きつつ、参加機関の具体的な連携を模索（共同研究・事業のフェージビリティスタディ案を作成）する

<シンポジウムと分科会の目的>

- 本研究会の構成機関による最新の研究について情報交換を行うことを目的に、シンポジウムを開催
- 上記目標を念頭に置きつつ、テーマごとに参加者間での情報交換や連携の可能性等を意見交換し、今後の共同研究・事業の可能性や課題等を整理することを目的に、分科会を開催

シンポジウム・分科会の開催概要

日時 : 2月13日(月) 10:00~17:00

形式 : ハイブリッド形式(つくば国際会議場+オンライン)

参加者 : 計160名程度(研究機関、地方自治体、LCCAC、関係省庁、大学関係者等)

プログラム :

10:00-10:15	開会(挨拶、趣旨説明)
10:15-12:00	シンポジウム: 研究機関による最新の研究動向の紹介 (3会場、計20講演)
12:00-13:15	休憩
13:15-14:25	分科会1~3: テーマごとの情報交換・意見交換
14:25-14:40	休憩
14:40-15:50	分科会4~6: テーマごとの情報交換・意見交換
15:50-16:05	休憩
16:05-16:50	報告会: 6分科会及び国際WGの活動結果報告
16:50-17:00	閉会



・各研究機関から最新の研究動向など発表いただいた。

	会場A (201室)	会場B (202A室)	会場C (202B室)
10:15-10:30	気候変動に向けた「洪水危険度の見える化」の取り組み (国土交通省国土技術政策総合研究所)	農業分野における気候変動適応策関連の研究の動向 (国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)	都市における極端高温・ヒートアイランド・熱関連健康被害に関する研究の紹介 (国立研究開発法人産業技術総合研究所)
10:30-10:45	適応策としての森林の防災減災機能の維持と緩和策としての森林管理の促進の両立を目指して (国立研究開発法人森林研究・整備機構)	気候変動適応型作物の創出技術の開発および活用 (国立研究開発法人理化学研究所)	建築研究所における気候変動適応に関連する研究 (国立研究開発法人建築研究所)
10:45-11:00	「環境×防災」人材育成研修プログラムの研究開発－九州・沖縄地域での試行モデル－ (国立研究開発法人防災科学技術研究所)	アジアモンスーン地域における気候変動対応のための農林業研究最前線 (国立研究開発法人国際農林水産業研究センター)	水道における気候変動影響とその対策 (厚生労働省国立保健医療科学院)
11:00-11:15	ICHARMによる東南アジアにおける気候変動適応研究 (国立研究開発法人土木研究所)	不確実な気候変動将来予測の下での適応策評価手法：ケニアの灌漑事業における適用事例 (独立行政法人国際協力機構)	農業気象災害とEco-DRR関連の取り組み (国立研究開発法人防災科学技術研究所)
11:15-11:30	北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) について (大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所)	水産業を対象とした気候変動影響予測と適応策の評価 (国立研究開発法人水産研究・教育機構)	気候変動適応に貢献するJAXA衛星データ (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)
11:30-11:45	海洋研究開発機構における気候変動関連の取り組み (国立研究開発法人海洋研究開発機構)	ブルーカーボンデータベースの構築に向けて (国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所)	高解像度地域気候モデルを利用した研究の取り組み (気象庁気象研究所)
11:45-12:00	将来の気候モデリングの在り方について (国立研究開発法人理化学研究所)	推進費S-18「気候変動影響予測・適応評価の総合的研究」の御紹介 (国立研究開発法人国立環境研究所)	

- テーマごとに参加者間での情報交換や連携の可能性等を意見交換し、今後の共同研究・事業の可能性や課題等を整理し、報告会にて結果を共有した。

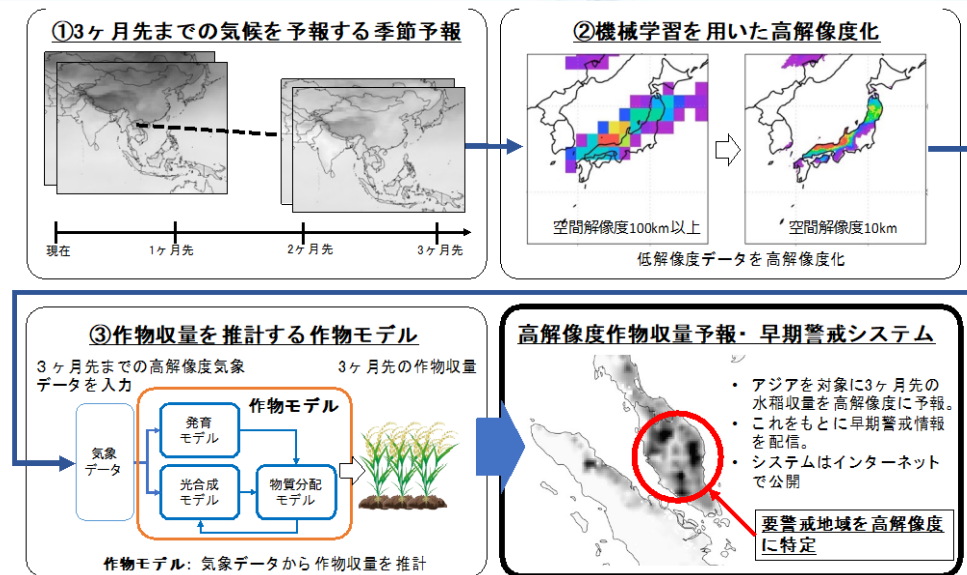
分科会	幹事機関 ／参加機関数	令和4年度の活動内容	今後の方向性等
分科会1： 短中長期シームレス将来予測、不確実性	理研 ／20機関程度	<ul style="list-style-type: none">• 予測データ利用ニーズの具体化のための試験的な調査• シームレス将来予測と不確実性を分けて関係者間で意見交換	<ul style="list-style-type: none">• 予測に対するニーズ調査について対象拡大等を目指す
分科会2： 農業	農研機構 ／13機関程度	<ul style="list-style-type: none">• 国研と地域の連携を推進するために関係者間で意見交換	<ul style="list-style-type: none">• ニーズとシーズのマッチング機会を増やすことが重要（分科会頻度、コンソーシアムなど）
分科会3： Eco-DRR、森林、害獣	NIES ／24機関程度	<ul style="list-style-type: none">• 参加者間での情報交換、連携の可能性について意見交換	<ul style="list-style-type: none">• 「研究アプローチ×対象生態系」のマトリクスを意識した議論が有効• 意見交換機会の高頻度化、オンライン活用等の工夫

- テーマごとに参加者間での情報交換や連携の可能性等を意見交換し、今後の共同研究・事業の可能性や課題等を整理し、報告会にて結果を共有した。

分科会	幹事機関 ／参加機関数	令和4年度の活動内容	今後の方向性等
分科会4： 海	JAMSTEC ／10機関程度	<ul style="list-style-type: none"> • 気候変動予測研究者、影響評価研究者、政策サイドの実務者間での意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> • 海というテーマが多岐に渡る一方で、十分な参加機関を確保できていない • 情報交換の場は必要であり、気軽に情報交換できる仕組みやホットピックの発表などにより参加機関を増やしていく
分科会5： 領域気候モデル（山岳）、 ダウンスケーリング	気象研 ／24機関程度	<ul style="list-style-type: none"> • シーズとニーズの情報共有 • 昨年度の分科会をきっかけとした科研費申請事例やその他の共同研究事例の共有 	<ul style="list-style-type: none"> • （分科会をきっかけにした事例などを参考に）個々のつながりからはじめていく
分科会6： 暑熱、健康、 都市	産総研 ／30機関程度	<ul style="list-style-type: none"> • 事前アンケートをもとにした意見交換 • 参加機関からの取組紹介や具体的なニーズをもとにした意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> • 分科会間の交流 • アンケートをもとにした意見交換

- 昨年度から活動を進めてきた国際WGでは、科研費（基盤A）の申請を行い、採択された。

- **気象研・農研機構・国環研・東大**で申請
- 課題名「季節予報を用いた高解像度作物収量予報・早期警戒システムの開発」
- 予算：36,000千円
- 機関：2023.4-2026.3



次の3つの最新科学技術を統合することにより、「**高解像度作物収量予報・早期警戒システム**」を構築する。

1. 数ヶ月先までの気象を予報する季節予報技術(**気象研**)
2. 高速かつ高精度に気象データを高解像度化する機械学習技術(**東大**)
3. 気象データから作物収量を推計する作物モデル (**農研機構・国環研**)